がんばってます Vol. 366

～異国の文化が融合した街並みと歴史豊かな長崎の魅力を南山手から伝える～

今回のがんばってますは、観光地グラバー園入口そばで長崎の歴史と文化を伝える南山手美術館と喫茶店を運営する常川 和宏さんと常川 緑さんをご紹介します。

南山手美術館
常川（つねかわ） 和宏（かずひろ） さん
常川（つねかわ） 緑（みどり） さん

代々受け継いだ〝長崎愛〟

海運業を営む曾祖父と祖父が収集していた長崎に関する美術品や工芸品に幼い頃から触れていた和宏さんは、歴史好きだった父の影響で自身も長崎の歴史や文化に惹かれていった。「長崎の歴史を学んでいくうちに、長崎に対する愛がどんどん深まっていき、曾祖父たちが残した美術品や工芸品で、長崎の魅力を伝える美術館を開設することが夢となっていました」と振り返る。

和宏さんは25年間にわたり、市内を訪れる観光客や修学旅行生を案内するボランティアガイドとして活動。その傍らで、美術館をオープンする準備を進め、電力会社を定年退職後、緑さんとともに、多くの観光地の中でも異国情緒が色濃く残る街並みの居留地・南山手で、平成24年12月に喫茶店を併設した私設美術館をオープンした。

出島から広まった異国文化

長崎に関連する美術品・工芸品のみを展示している同館。中には、文献に掲載されるような貴重な美術品もあるそうで、観光客や歴史好きの人だけでなく、国内外の歴史家などの研究者や学生も多く訪れる。

また、海外から長崎へ伝わった美術品も多く所有しており、江戸時代に中国の僧侶から伝えられた水墨・墨彩画の〝長崎南画〟をはじめ、中国書法の〝唐様の書〟や、南蛮船や商人を描いた異国情緒豊かな〝長崎版画〟など、同館でしか出会えない長崎にゆかりのある作品は、訪れる人々を魅了する。「鎖国時代、唯一海外との貿易を行なっていた出島は、オランダやポルトガルなどの西洋文化や中国文化の入り口となっていました。それらの文化が出島から長崎の人々の生活に浸透していき、その後、全国へ広まっていったと考えられます」

長崎港の歴史を読み解く企画展

館内では年4回の企画展を開催しており、坂本龍馬や幕末関連の企画展は特に人気があり、県内外の幕末ファンからの問い合わせも多いという。

今年8月からは、長崎開港450周年を記念した企画展「長崎港の今と昔」を開催。江戸時代の初期から現在までの長崎港を描いた古地図や絵図、写真など100点ほどを展示しており、時代ごとに並べられた地図や写真について、和宏さんの丁寧な解説を聞きながら、長崎港の変遷を鑑賞することができる。「埋め立てとともに新しい街ができていく様子や港の形状の変化など、長崎港の移り変わりと当時の人々の生活に触れていただける内容となっています」と和宏さん。この企画展は令和4年1月10日までの開催を予定している。

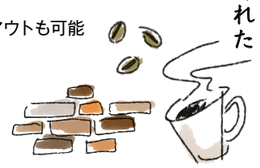
長崎の魅力を全国へ

喫茶店では、手作りケーキや店内で焙煎されたコーヒーで訪れる観光客の疲れを癒している。「お客様の声で誕生した幕末コーヒーは、当時の焙煎方法を再現した当店の人気メニューです。また、カステラの間にバニラアイスを挟んだオリジナルのカステラアイスは、味や食感にもこだわって作っています」と話す緑さん。店内の壁は貸画廊としても提供しており、県内の若手の画家やアーティストの支援を行なっている。

これまでにも多くの観光客など訪れた人々との交流を通して長崎の魅力を伝えてきた和宏さんと緑さん。コロナ収束後には、再び長崎の街が観光客やクルーズ船の入港で賑わうことを心待ちにしているという。「国内だけでなく、海外の方にも長崎の歴史や文化に触れていただき、長崎のことを好きになってくれる人が増えることが私達の喜びです。今後も、趣向を凝らした展示で長崎の魅力を発信していきたいです」と笑顔を見せた。

豊富な知識と優しい口調で長崎の魅力を伝える和宏さんと、あたたかい雰囲気で訪れる人々を包み込む緑さん。みなさんも、南山手美術館を訪れて長崎の魅力を再発見してみてください！

①数多くの美術品が展示されている館内
②日本初のマグカップでいただく「幕末コーヒー」は格別な味わい♪
③カステラアイスはテイクアウトも可能



Information

南山手美術館
〒850-0931 長崎市南山手4-3
☎ 095-870-7192
HP https://www.minamiyamate-museum.jp/
営 10:00～16:00 休 毎月1日、16日
入館料 大人 500円 高校生 300円
小中学生 200円
（臨時休館日あり）